【資料8】

令和8年度予算案
記者発表資料より抜粋



「こどもまんなか　すみだ」の推進

11

妊娠～出産・子育てまで　切れ目ない支援

子どもを安心して産み育てられる環境の充実

予算額　新規　拡充

1億5,301万円

（1）～（3）健康推進課　4,721万円
（4）子育て支援総合センター　1億580万円

問合せ
健康推進課
母子健康づくり担当副参事
平山　千富　3622-9139
子育て支援総合センター館長
野澤　典子　3622-1150

1 目的

妊娠期から出産・子育て期まで切れ目のない支援により、誰もが安心して出産・子育てができるまち「こどもまんなかすみだ」の実現に向けて各種関連事業を実施・拡充する。

2 主な事業内容

（1）育児パッケージの追加配布【2,673万円】 拡充

「ゆりかご・すみだ」面接終了時に配布している育児パッケージについて、区独自の支援として増額配布する。

（2）産婦健診・1か月児健診費用助成【1,600万円】 新規

これまで全額自己負担となっていた健診費用について、4月から前倒しで費用助成を行うことにより、積極的な受診と経済的な負担の軽減を図る。

（3）産後ケア事業の実施【448万円】 拡充

利用者アンケートにて一番要望が多い利用日数の増加について、日帰り型産後ケアの利用日数を2日から4日へ拡充。

（4）ファミリー・アテンダント事業の実施【1億580万円】 新規

見守り支援員が対象世帯を訪問し、育児に関する悩みや不安を聞き取り、子育て情報やサービス等の案内を行う。また訪問後は、育児支援品の購入に利用できる電子チケットを提供。

さらに定期訪問による見守りにより、支援が必要と思われる家庭、または希望する家庭に既存事業「いっしょに保育」で訪問し、育児の不安等を傾聴し、必要な支援につなげる。

3 事業イメージ・その他



New!!

（2）産婦健診・1か月児健診費用助成

10月以降実施予定の都内共通受診方式から前倒し！

- 産婦健診　5,000円×2回分
- 1か月児健診　6,000円×1回分

（1）育児パッケージ（こども商品券）の金額UP！

1万円 ⇨ **2万円**

※双胎の場合は4万円

区独自！







New!!



（3）日帰り型産後ケアの利用可能日数UP！

2日 ⇨ **4日**

（4）ファミリー・アテンダント事業

★定期訪問による見守り

- 原則月一回（上限7回）
- 訪問後電子チケット配布（訪問1回につき3,000円）

★傾聴による伴走支援

1世帯当たり年間3回まで（多胎児は4回まで）





12 保護者・保育士の負担を軽減！

おむつのサブスク利用料助成

予算額 新規

3,900万円

問合せ
子ども施設課長
細谷　勇治　内線3451

1 目的

保護者及び保育士の負担を軽減し、保育の質の向上を図るため、紙おむつとおしりふきの定額利用サービス（サブスク）の利用促進として、サブスク利用料の助成を行う。

2 主な事業内容

サブスク利用料助成事業 【3,900万円】 新規

都内初!!

【対象者】
サブスク導入施設
0歳児クラス～2歳児クラス
園児1人あたり月額1，000円を助成する。



【対象施設】区内施設のみ
認可保育所（区立・私立）
認定こども園
小規模保育事業所
家庭的保育事業所
認証保育所
定期利用保育事業施設



3 事業イメージ

おむつのサブスクとは？？

・・・月額定額制で、紙おむつ・おしりふきが使い放題になるサービス

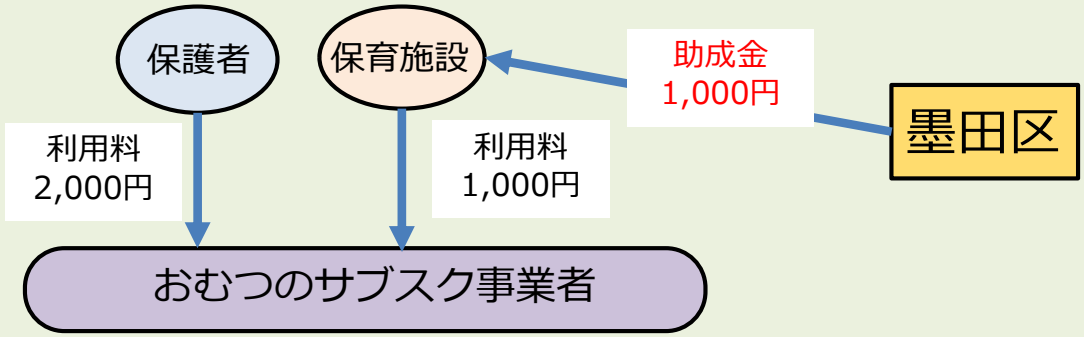
登園時の保護者の荷物負担軽減



保育士のおむつ業務負担軽減と保育の質向上



サブスク利用料助成とは？



※私立施設でサブスク利用料が3,000円/月の場合

14 みんなでつくる、進める
「こどもまんなかすみだ」の推進

予算額 拡充 継続
8,807万円
（1）子育て政策課　6,957万円
（2）（3）子育て支援課　1,850万円

問合せ
子育て政策課長
遠田　和寛　内線3401
子育て支援課長
大島　悠樹　内線3441

1 目的

こどもや子育て家庭等の意見・視点を意識し、笑顔のあふれる、こどもの最善の利益を優先するまち「こどもまんなかすみだ」の実現に向けた取組を推進する。

2 主な事業内容



（1）公立学童クラブの受け皿の拡充【6,957万円】 拡充

保護者のニーズに対応するため、延長・土曜育成実施クラブを9か所拡充する。また、学童クラブごとの定員を見直すことで、定員を合計59名分増やすとともに、選考基準・方法の見直しにより定員を最大限活用し、待機児童の削減を図る。

さらに、今後も待機児童の発生が予測される地域で小学校内学童クラブを1か所新設する（令和9年4月開設予定）。

（2）子どもの体験活動支援事業の実施【1,000万円】 拡充

小学生を対象に、区内での体験活動（文化活動、音楽芸術活動、スポーツ、自然体験等）の機会を確保することで、子どもの健やかな成長を支える。

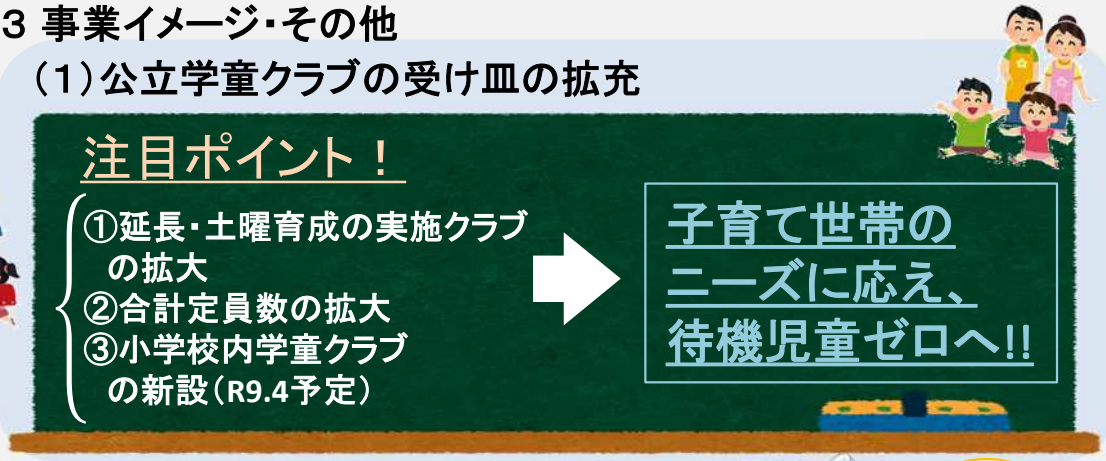
令和8年度は、総合的芸術祭との連携など、他の団体とのつながりを意識し、より多様な体験を子どもたちへ届ける。

（3）こどもわくわくフェスティバルの実施【850万円】 継続

地域でつくるこどもが主役のイベント「こどもわくわくフェスティバル」を開催する。遊び・学び・食の多様な体験機会やこどもの意見表明の場を創出。こどもから大人まで共に参加し、墨田区こども条例の理念を推進する。

3 事業イメージ・その他

（1）公立学童クラブの受け皿の拡充



（2）子どもの体験活動支援事業の実施



（3）こどもわくわくフェスティバルの実施



15 ～英語教育の充実と授業づくり支援サービスの導入～

こどもも教員もレベルアップ！

予算額 新規 拡充
3,755 万円
（1）指導室 3,437万円
（2）教育センター 318万円

問合せ
指導室長
石坂 泰 内線5140
教育センター所長
石坂 泰 直通3622-1126

1 目的

児童・生徒が外国語指導員が話すネイティブ英語に触れ、話す機会を確保し、コミュニケーション力や英語力を伸ばすことができるよう、英語教育の充実を図る。

また、若手教員の指導において、授業を可視化できるクラウド型授業づくり支援サービスを導入・活用し、教員の指導力向上を図り、さらなる授業改善に繋げていく。



2 主な事業内容

（1）-①外国語指導員派遣時数の増加【2,887万円】 拡充

小・中学校の英語授業への外国語指導員派遣時数を増やし、英語でコミュニケーションを取る機会をさらに確保する。

（1）-②小学校での英語体験型学習【550万円】 新規

区立小学校に複数の外国語指導員を派遣し、学んだ英語を活かせる環境を用意する。児童一人ひとりが英語を話す機会をつくり、英語が使え、考えが伝わる体験型学習を実施する。

（2）クラウド型授業づくり支援サービスの導入【318万円】 新規

教員の問いかけや、授業全体を通して話している量を可視化することで、指導・助言を効果的に行い、若手教員の授業力を高める。（※全ての教科で実施）

3 事業イメージ・その他

（1）—①外国語指導員年間派遣時数の追加

小学校１・２年生	小学校３・４年生	小学校５・６年生
６時間 ➪ ９時間	20時間 ➪ 25時間	37時間 ➪ 50時間

（1）—②小学校での英語体験型学習

学んだ英語を使いながら、外国語指導員が出すミッションをクリアする

（ミッション例）
- 病院ブース
- 図書館ブース
- 旅行ブース

これまでの学びを活かしながら、ネイティブの英語に触れ、使い、英語を学ぶ意欲がUP！

中学生
29時間 ➪ 35時間

これまでの学びを活かして

TOKYO GLOBAL GATEWAY
海外派遣事業
イングリッシュキャンプ
地域部活動英語部

（2）クラウド型授業づくり支援サービスの導入

全校での実施は23区初



授業風景をタブレットで録画・録音



文字起こし
分析データの作成
フィードバック
個人での振り返り



授業改善
学力向上